

平成30年度 三河港利用促進戦略検討調査業務委託 実施概要 (愛知県三河港務所 委託事業)

1. 業務の目的

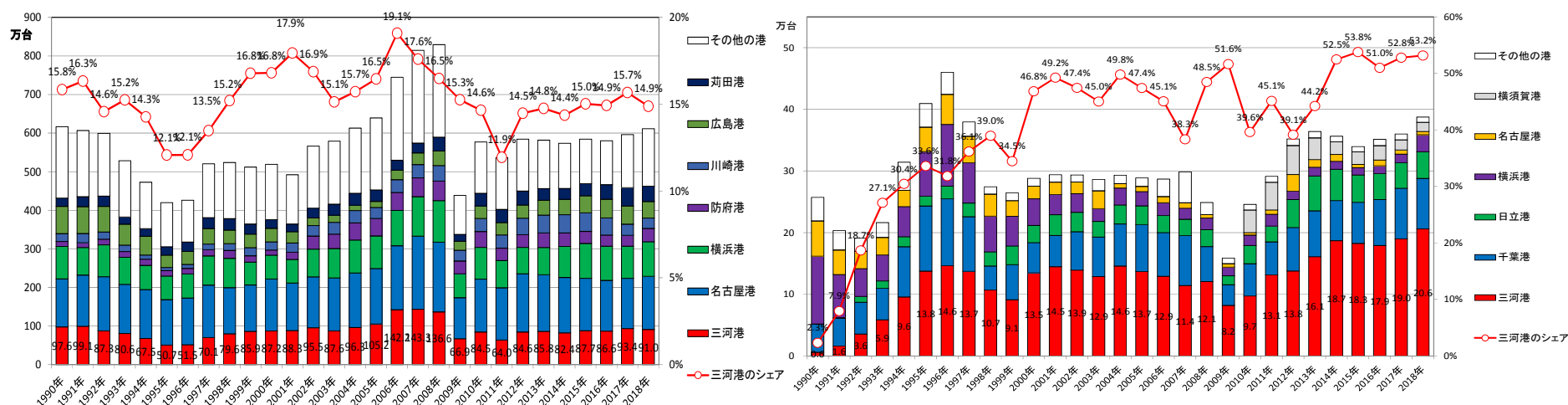
三河港は25年連続日本一の輸入自動車をはじめとする世界的な自動車輸出入港湾であり、完成自動車は全貨物取扱量の7割を占める。その為、完成自動車の動向は三河港の取扱貨物量に直結しており、適切な状況把握やそれに伴う施策の実施は、三河港の振興業務として必須である。

本調査は、完成自動車の輸出入取扱状況を分析し、併せて、三河港と同様に完成自動車を取扱う港湾にヒアリングから、IT化やモータープール不足などの自動車港湾における諸課題への取り組み状況等を調査した。

また、三河港の背後圏におけるコンテナ貨物の流動調査を行うとともに、背後圏における潜在的な利用企業等へヒアリングを実施し、三河港を利用するにあたっての課題等を調査した。

以上より、三河港の取扱貨物の拡大と利用促進に向けた取り組みの方向性を検討するための基礎資料を取りまとめた。

2. 調査結果(一部抜粋)



■輸出港湾の取扱状況

2018年の日本から海外への完成自動車輸出台数は611万台で、2017年の596万台から約15万台増加した。

2018年の港湾別の輸出台数をみると、最も輸出台数が多いのは名古屋港の137万台(前年130万台)、次いで、三河港の90万台(同93万台)、横浜港の89万台(同83万台)である。

三河港の輸出シェアは14.9%である。それ以外の港湾では、マツダの輸出拠点である広島港が42万台(同47万台)、日産の輸出拠点である刈田港が39万台(同47万台)となっている。

■輸入港湾の取扱状況

2018年の海外から日本への完成自動車輸入台数は38.7万台で、2017年の35.9万台から約2.7万台増加となった。

2018年の港湾別の輸入台数をみると、三河港が20.6万台(前年18.9万台)で26年連続全国1位となった。三河港の輸入台数の全国シェアは前年比0.4ポイント増加して53.2%となった。

三河港に次いで、千葉港が8.1万台(同8.1万台)、日立港が4.3万台(同4.1万台)、横浜港が2.7万台(同1.3万台)、横須賀港が1.4万台(同1.6万台)である。